

兒童心理學文獻抄

十

牛島義久

七四

幼兒の辨別力と記憶

色の區別、形の差異、重さの相異等を感じ別ける事は外界の世界を正しく知覺するのに必要な條件である。乳兒等に於ては之等の區別が到底精密に出来ない爲に彼等の感ずる世界さいふものはピントの合はない印畫紙の様に大體の形は判じられても細部は茫漠としてゐる。段々成長する

につれて之等の細部が明瞭になり特殊の生活條件の下では一層之が發達して來る。例へば音樂家は普通の人では聞き分けられない音の高さの相違を敏感に感じ、調子の高低のみならず強さに對しても非常に感が鋭くなつてゐる。或は細字書きの名人は常人の肉眼では區別出来ない様な細かな形の相違を書き分け世人を驚嘆させて居る。斯る特殊な場

合は別しても感覺の辨別力が發達する事は子供が一人前になる條件であり、而も此機能は他の複雑な精神機能に較べるに早く成熟する作用である。智能ならば十五、六歳にならないに一人前に達しないが音の辨別さか形の區別等は十歳位になるに大人と同じ位に辨別する事が出来る様になる。

今幼稚園位の幼兒では如何なる状態であらうか、之に就ては最近東京女高師附屬幼稚園等に於て筆者等の實驗した未發表の研究がある故に此の一部を紹介しやう。

此場合は大きさの比較をさせたのであつて一邊それ／＼六糶、六・四糶、六・八糶、七・三糶の四枚の正方形の板を一列に並べて子供に示し、最も大きいものから順々に指示さ

せた。此の板の位置は毎回異なつてゐて大ききの順に並んでゐる譯ではない。此の位の大ききの差異ならば吾々大人なら容易に區別の出来るものであるが、彼等幼児にまつてはしかく容易ではない。即ち一人に三回宛斯る判別をさせ

合格者の%

年 齡	人數	三回合格	二回合格	一回合格
4:6—4:11	40	7.5%	35.0%	77.5%
5:0—5:5	51	31.6	60.8	88.2
5:6—5:11	65	61.5	90.7	96.9
6:0—6:5	20	65.0	85.0	100.0

たが三回共完全に正しかつたのは上の表の如く四歳後期邊ではごく僅かで一割の者も出来てゐない。然し年齢のすゝむに應じて増加し五歳後半に於ては三分の二位の者が出来てゐる。尙三回の中二回丈正しかつた者の數及び一回丈正しかつたものゝ數を附記したがそれぞれ年齢によつて成功する者が増加し、五歳後半位になるに三回の中一回位なら殆んど誰でも正しく區別出

來る様になつてゐる。

次に子供が區別を誤まる過程を見るに右或は左の端から

順々に大ききにお構ひなしに指して行く者があるが之は最も甚しい誤まりである。次には一番大きいもの丈は選び出せても他は誤まる者、或は間違つた場合に聞直すに正しい答をしたり、第一回目は正しくても第二回、第三回目が間違ふ事がある。之で見るに彼等が視覺的に大ききの區別が出来、出来ないに云ふより、かう云ふ様な辨別する仕事が出来、出来ないに云ふ風に考へられる。此の仕事が子供には充分出来ないに云ふ風を考へられる。此の仕事の意味を理解して、大きいものを拾ひ出したり或は注意を長く持續させて終迄此の仕事を續ける事が彼ら幼児には困難であり面倒くさい事なのである。ビネーの智能検査にも重さの辨別の問題があり、五歳の所では三瓦と十瓦の二つの重さ(形は同じ)を區別させて居るが此の場合答が正しいかぎうかさいふ事よりも區別するにさいふ仕事が出来るかぎうかさいふ事が重要になつてゐる。即ち一つく重しを手にとつて重い方を差出さなければならぬが幼少の子供ださいきなり一方の方を取上げて渡したり一方の手に兩方同時に掴んだりして、重さを較べるにさいふ事が出来ないものが多い。故に斯る比較の問題さいふ事は單なる感覺の問

題でなく一層複雑な精神過程である。従つて斯る仕事を練習させる事は大いに智能の啓發に役立つ。モンテッソリが幼稚園児教育の方法として感覺の辨別をこり、ビネーが低能児教育の方法として辨別力並びに記憶力の練習を重んじたのは斯る理由からである。

次に子供は記憶力が非常に優れてゐる事によつて大人を驚異させてゐる。楢崎氏は(兒童青年精神力學的研究)小學校三年生でも優秀なるものは既に中學校一年生位の記憶力を有してゐるを述べられてゐる。併し元より之にも發達がある。即ち普通人の直接記憶の範圍は七個位云はれてゐる。直接記憶とは與へられた印象の中から直接につかみ得る——記憶し得る——範圍を指すのであつて例へば數字を

九・七・二・八・四・七・五等の順々に聞かされる場合七個の數字位迄は普通間違ひなく復唱する事が出来る。併し子供の場合だゞ年齢によつて異なり四歳ならば三個の數字、五歳は四個、八歳で五個、十二歳で六個、十四歳で七個の數字が正しく反唱出来る状態である。(ビネー・シモン智能検査尺度による)。

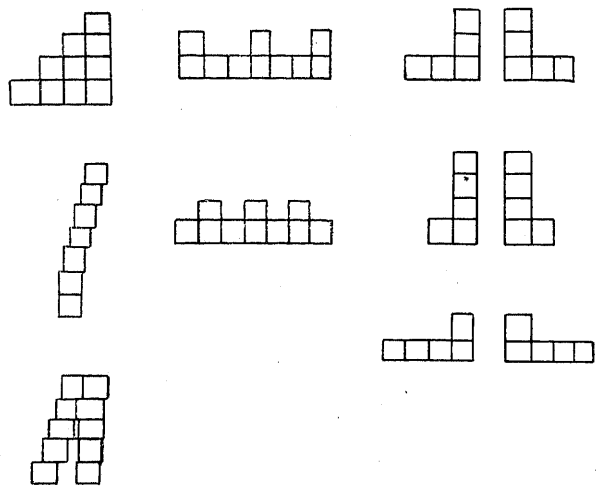
ビューラー(幼兒検査、前掲)は此子供の記憶を検査するのにもつゞ興味のある方法を講じてゐる。單なる數字を覺える事は子供には興味のない事であるので、澤山の小抽斗のある箆筒をこしらへた。即ち五個宛三列の抽斗があり、此の抽斗の面にはそれづゝ異つた色が塗つてある。今此の中の一つに鞠、他に人形、瓶、魚の玩具等を入れ、その位置を記憶させ、二十分経つて後再び之等の場所をあてさせる。斯る遣方だゞ子供は喜んで検査に應じてくれる。其標準は三歳兒検査では三つの品物の中二つが見出され、ば合格となつて居り、四歳兒検査にては四つの品物の中三つが見出され、ば合格、五歳兒検査では五つの中四つが見出され、ば合格となつてゐる。

以上によつて幼稚園兒の直接記憶の範圍は四個位である事が判る。故に餘りに多くの事を一時に教へても子供はそれを捉へ得る能力がない譯である。

之と同じ様な問題を前述の女高師幼稚園兒に就て實驗した結果をのべやう。今度は十個の立方體積木を用意し、子供が目を閉ぢてゐる間に圖の様な門の形や塀の形や階段の

形を作つておきそれを十秒間子供に見せる。次に之を取り
 毀し前と同じ形を子供に作らせた。即ち子供は始めに見せ
 られた形を記憶してそれと同じ物を再構成しなければなら

手本 誤り



ぬ譯である。斯る具體的な形の記憶は勿論手本によつて難
 易が生ずるから一々の形に就てのべて見やう。

子供に手本を見せて「同じ形が作れますか」と聞くこ
 大概の子供は「ウン」と點頭して自ら手本を毀して作り始め
 る。併しその始めの自信あり氣の出だしにも似ず此の簡單
 な形が中々作れない。門の場合だに圖の如く四つ縦に積ん
 で横に一つ置いたり、横に置くのを三個にしてすましてる
 者が澤山居る。今一分間以内

合格者の%

	人数	門ノ形	塀	階段
4:6—4:11	40	50.2%	50.0%	37.5%
5:0—5:5	51	68.6	56.8	45.1
5:6—5:11	61	80.3	70.5	73.8
6:0—6:5	20	80	85.0	65.0

で正しく手本と同じ形が作れた
 もの、數を見るに上表の如く四
 歳後半では漸く半數で六歳前半
 位になる。八割の者が成功して
 る。塀の形の場合も同様で上
 にのせる積木の數を間違へたり
 位置を間違へる者が多い。四歳
 後半では半數、六歳前半で始め
 て八割位成功する。

次の階段の形は一層六つかし

い。吾々大人にまつては斯る簡單な形に於てはいづれも同様で門、堀、階段の間の難易を決定する事は却つて困難であるが、子供にまつてはさうでなく、門より階段の方がすつみ六つかしくなるのである。約半歳分だけ六つかしい。

即ち四歳後半では三十七%位しか成功せず五歳前半ではじめて四十五%位成功する。尙子供の作る間違つた階段の形を見てゐるミ子供の記憶の状態がよく分る。割合に多く見られる此形は圖の如くピサの斜塔の様に一直線に高く積んだり、二個宛立てて積んで行くものである。前者は階段は段々高くなつて行くさいふ印象丈が強く残つてゐるその他の點は漠然としてゐる爲に高く積んで行くのである。併しギザ／＼をつける事により階段の形は残してゐる。後者の場合は之より一段進んでゐる數個のものを階段狀に積み重ねるさいふ印象が残つてゐる。併し一番下を四個、次を三個、二個、一個さいふ風な所迄は分らない。もつみ發達した子供に於ては手本を見る時に此の點に留意して觀察し、積木の數をわざ／＼數へたりしてゐる。

此の様に記憶状態にも色々の段階が見られるが、子供の

記憶ミ大人の記憶ミには性質の相違がある事が判る。大人の様な正確な記憶をなす迄には子供は色々の段階を経ねばならないのである。

尙印象を把持してゐる間に記憶が歪曲されるさいふ現象があるが、例へば鈍角の形は記憶してゐる中に一層鈍角になつたり、鋭角の形を再生する場合には一層鋭角が鋭くなる等刺戟の有する性質が一層誇張されて記憶される。斯る現象は大人にも無論見られるが子供には一層甚しい譯である。

その他の記憶の仕方にも大人ミ子供ミは非常に異なる。子供は機械的記憶に優れ、大人は論理的記憶に優れる。ミはよく云はれる事である。論理的記憶によるミ短時間に澤山のことを記憶する事が出来るが、機械的記憶による時は一つの事を覚えるのに何回も繰返す必要がある。併し一度記憶に定著するミ中々消失せない。子供が始めて言葉を感じるのは主としてかういふプロセスをこるものである。